



〇営業時間の変更について

棚卸につき	令和5年1月31日（火） 15:00で閉店
	令和5年2月28日（火） 15:00で閉店
令和5年 4月より	閉店時間が17時から 16時に変更 になります。 ご迷惑をおかけいたしますがご理解とご協力をお願いいたします。

〇西部農機具センター出張サービスについて

2月はお休みとなります。

【果樹】

縮間伐及び園地環境の改善

高品質果実の生産、低樹高化のためには、十分な樹間距離が必要になります。密植園では、樹高が高くなり作業性が低下し、また日陰になるため高品質果実の生産ができません。剪定に入る前に縮間伐をして十分な樹の間隔を確保しましょう。併せて、園地の防風林等の手入れもしましょう。

【温州みかん】

施肥

〇苦土タンカ 200kg/10a 酸性土壌の是正が目的です。

* 葉色の悪い園(微量元素不足の可能性あり)では、マルチサポート 80kg/10a を使用

整枝剪定（大津・青島） 2月中旬以降(厳寒期を過ぎた頃)から始めましょう。

大津・青島は大果系です。剪定量が多いと大玉果となります。

中玉果の生産のために隔年で管理方法を変えましょう。

① 表年の樹

ハサミ剪定を主体で主枝の切り下げ、下垂した枝の切返し、密生した夏秋梢の整理、強い夏枝の発生部からの除去等をしてしましょう。剪定量を増やすと大玉果の原因になります。剪定量は1割以下を目安とします。

② 裏年の樹（昨年着果が多かった樹）

ノコギリ剪定を主体に樹形を整えましょう。樹形は3本主枝の開心自然形が基本になります。剪定量が多いと、翌年大玉果が増えますので、剪定量は2割以下を目安とします。

③ 共通

薬剤散布や収穫の作業性向上のため、樹冠内部への入り口を北側に作りましょう。

強い内向枝・病虫害被害枝・枯れ枝は除去しましょう。

—【う め】—

病害虫防除 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょよう。

1月

○灰星病 (開花期始め) ベルクート水和剤 収穫30日前 3回 2,000倍 50g/水100㍓
(満開期) オーシャイン水和剤 収穫前日 3回 3,000倍 33g/水100㍓

※ 灰星病の罹病枝が分からない方は、最寄りの営農経済センターにご確認ください。また、十郎を栽培している場合は、十郎の開花状況に合わせてましょよう。

※ 灰星病で枯れた枝は開花期までに剪除して、園内に残さないことが重要です。

3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓

3月中旬～3月下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml/水100㍓ 又は
チェス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g/水100㍓

○灰色かび病 ポリバリン水和剤 収穫30日前 3回 1,000倍 100g/水100㍓

※ 灰色かび病の防除は、満開期・落弁期が目安となります。品種別に防除適期も異なります。適期の防除を心掛けましょよう。

—【キウイフルーツ】—

*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょよう。

病害虫防除 3月中旬(発芽前)

○かいよう病 ICボルドー66D 50倍 2,000g/水100㍓

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤(劇) 収穫7日前 3回 2,000倍 50ml/水100㍓

剪定

剪定が終了していない園は、速やかに剪定を終わらせましょよう。

—【お茶】—

整枝 3月中旬(寒害がなくなるころ)

秋整枝をしていない園では、摘採面を揃えるため浅く整枝ましょよう。

秋整枝をした園で、遅れ芽や立ち葉が出ている園では再整枝(化粧ならし)をましょよう。

※再整枝の目的は1番茶の品質低下防止です。ごく浅く整枝ましょよう。深刈りは減収につながります。

施肥 施肥の前に敷き藁・敷き草等をよけておきましょよう。

春肥は、一番茶の芽の生育と品質に効果があり、茶樹はこの時期に平均温度が10℃以上になると根が動き始めて、樹体内の養分の転流が始まります。

分肥(2回に分ける)土と混和させると肥効が高まります。

2月下旬と3月中旬に「足柄茶配合 100kg/10a」を1回ずつ施肥ましょよう。

定植 3月

新植及び改植する場合は3月に行います。3月の定植に合わせて2月に定植準備をましょよう。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用ましょよう。